

令和4年度 南砺市健康づくり推進協議会 会議録

1、日時 令和4年10月31日(月)午後7時～午後8時25分

2、場所 南砺市地域包括ケアセンター2階多目的研修室

3、出席者 ①出席者：11名

松会長、南田副会長、松倉委員、中林委員、川口委員、松井委員、
亀田委員、増田委員、鍛冶委員、荒岡委員、廣原委員

欠席者：4名

成瀬副会長（代理 北川出席）、山田委員、竹中委員、武部委員

②傍聴人：0名

③事務局：地域包括医療ケア部長 ほか 10名

4、会議内容

(1) 開会

(2) 市長挨拶

(3) 協議事項

1) 各課の健康づくりの取組み状況について（資料1～6）

・各課より実績・課題、取組みについて説明。

資料1 妊娠期から乳幼児期の保健事業（保健センター） [P 1]

資料2 保育園における保健事業（こども課） [P 6]

資料3 小・中学生の保健事業（教育総務課） [P 10]

資料4 成人期の保健事業（健康課） [P 15]

資料5 南砺市国保、医療費の現状（健康課） [P 24]

資料6 高齢期の保健事業（地域包括ケア課） [P 27]

・質疑応答

委員 児童虐待防止のための支援の1つである乳児全戸訪問の連絡件数は100%か？

事務局 ほぼ100%把握している。長期里帰り等の理由で4カ月以上経過した場合でも連絡している。

委員 連絡がとれなかった方で虐待が発見されることはあるか。連絡がとれた場合ととれなかった場合で虐待発見数の差はあるか。

事務局 連絡がとれた場合ととれなかった場合で虐待発見数に差は無い。第一子に虐待が発見された場合、第二子、第三子に対して必ず配慮している。新規の事例は、こども課や教育委員会からの情報も受けて全体数を把握するよう努めている。

委員 連絡件数を100%にすることよりも虐待を発見してそれを減らすことが重要だと考える。

事務局 連絡がとれるように取り組み、対象者の把握に努めていきたい。

- 事務局 本日欠席の委員よりご意見いただいている。
「寝たきり予防・健康寿命延伸の実現には若いうちから健康意識を高め、健康への自立心を確立することが重要であり、家族の食生活習慣が原点となりその知識によって確立されていくと考える。ライフサイクルに合わせて取り組みされている各健康づくり事業に期待している。各地域づくり協議会との協働により運動などの実践につながればよい。」とのご意見だった。
- 委員 先日の南砺市歯科保健講演会でフッ素や歯について研修を受け、健康寿命の延伸には歯を維持することがとても大事だということがわかった。老人会で歯磨きやフッ素洗口、舌体操などのオーラルフレイルのことについて研修をしていただきたい。
- 委員 市では1歳6か月児から半年ごとにフッ素塗布を行っている。3歳6か月児においてフッ素塗布を5回完了した児と完了していない児ではむし歯の本数に大きな差がある。親の意識もあるがフッ素の効果は高いと言える。また市では幼児から中学生までフッ素洗口を行っており、取り組みは進んでいる。しかし、新型コロナウイルス拡大によりフッ素洗口を中止したところもあり、また歯磨き指導は多いがフッ素について消極的なイメージがある。フッ素が悪い物質のイメージもあるようで正しい知識の普及活動を行って欲しい。オーラルフレイルについては、噛む力、頬の動き、唾液の量、舌の動きなど、口の周囲の動きすべて含めて考える。歯科医に研修の依頼はあるが、もしフレイルを発見した場合、その後のフォローとしてどこへつなげればよいかわからない。市に専門の方がいたら助言するなどの受け皿をつくって欲しい。
- 委員 フッ素は良い効果があるということはたしかであり、フレイル予防について高齢者に研修し呼びかけたいと思う。
- 事務局 オーラルフレイル発見時の受け皿や住民の学習の場への協力体制について、地域の集まりの場に専門職の派遣を行っている。歯科衛生士や言語聴覚士の協力を得て口腔の手入れの仕方についてご指導させていただく機会は設けられる。個別の指導の体制もっており、福光保健センターの歯科衛生士とも協力し指導体制をとらせていただいている。
- 委員 オーラルフレイルや歯の大事さについて、また80歳で歯を20本以上健康に保つには60、70歳の段階でどうしたらよいかなど、ご指導いただけるよう相談に伺いたい。
- 会長 妊産婦の切迫早産や低出生体重児が多い傾向にある。南砺市には産婦人科も新生児医療の施設もない。砺波市で低出生体重児を出

産したら救急車で厚生連高岡病院に搬送されるのが現状である。南砺市だけで考えていても意味がなく、広域的な医療圏で考えていけないといけないと思うが、行政はどう考えているのか。

事務局 南砺市だけで解決できる問題ではないと考えている。現在、富山県内では厚生連高岡病院、富山県立中央病院、富山大学附属病院に合計24床のNICUが確保されている。厚生労働省はNICU病床数の目標として出生1万人あたり3床としており、富山県内ではすでに十分なNICUが確保されていることになる。しかし南砺市の妊産婦や新生児の医療体制について迅速な搬送が必要となる難しい状況なので広域で検討していきたい。

委員 市内の小中学校で肥満指導はあるが、最近の子どもたちを見ているとやせ気味で体格の細い子や身長が伸びない子が多いように思う。睡眠と食事の関係について調査して欲しい。子どもたちはゲームやテレビの視聴時間が長かったり、夜間の習い事があつたりと就寝が遅くなっているのではないか。家庭生活への介入は難しいことは理解している。また、体格が標準まで成長しないといけないうことはないが、なぜ身長が伸びないのか、体重が増えないのか、元気なからだをつくるにはどうしたらよいかの指導も市で取り組んでいただけるとありがたい。

会長 身長は遺伝的要素が強い。生活習慣や栄養などの様々な要因が関係しているため、全員身長が高くなるというものではない。

委員 遺伝は理解しているが、給食を全部食べられない子が問題だと思う。

会長 子どもの成長を比較した場合、4月2日生まれと4月1日生まれでは1年違うため、体格に差があり、食事摂取量もみんな同じようにはならない。

委員 今回の資料ではわからないが、全体的に子どもたちの体格がやせ傾向のような気がする。肥満指導だけでなく、やせている子にも保健指導をしていただきたい。

会長 親子の体型が似るのは食生活が同じであることも要因の1つである。子どもだけでなく保護者への指導が必要となりなかなか介入は厳しいと思う。

裸眼視力について、学校保健委員会でも視力低下を課題としているが、眼科医は遠くが見えにくくても眼鏡やコンタクトレンズ等を使うことで生活に支障はなく、現代病と捉えているように思う。このような考えの相違があると、教育現場への介入は難しい。近眼予防は可能と考えているが、予防不可能で対策がないのであれば健康課題から外せばよいのではないか。子どもの眼の成長と小・中学校での近眼指導の仕方を、子どもの近眼について研究し

ている大学教授に学ぶ機会を作るとよいと思われる。

事務局 教育委員会としては子どもがメディアに触れる時間も多く、近眼も健康課題の1つとしている。保健主事や養護教諭の合同研修では大学の先生に指導をしていただいている。専門家の講師なども招いて啓発していきたいと思う。

会長 1歳6カ月児から3歳6か月児のむし歯の無い児の割合が高いが、むし歯を予防する方法があるのか？

委員 1歳6カ月児から3歳6か月児にむし歯が無いのは、生まれたばかりの赤ちゃんのお口の中にはむし歯菌はいないため。もし、むし歯があれば、身近で世話をする大人から移るからである。3歳頃までむし歯の感染を少なくし、砂糖を控えて虫歯菌を増やさないようにすることが大切なため、家庭環境やフッ素の取り組み、親の意識などが関係している。小学生になるとさらにその差が広がってくる。3歳までにできることは、仕上げ磨きやフッ素塗布による予防効果が高い。

2) 南砺市健康プランについて 資料7 [P30]

- ・事務局から、南砺市健康プランの概要を説明。
- ・質疑応答
- ・健康プランの計画期間の延長、次期プランの策定及び専門部会の設置について、意見が無かったため決定
- ・専門部会の委員の選出について
委員に意見を求めたが特になかったので、事務局から案を提出した。異議が無かったため案の委員に決定した。

4. その他

- ・元気とやまかがやきウォークについて

5. 閉 会 地域包括医療ケア部長挨拶